

5 今年度の重点課題(学校アクションプラン)

平成31年度(2019年度)高岡南高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	進路支援
重点課題	<p>(1) 3年間を通して挑戦する気持と諦めさせない心を育成するとともに、全校協力態勢のもと粘り強く最後まで指導し、生徒の第一志望校(願書出願をした大学の中で最も行きたい大学)合格を支援する。</p> <p>(2) 一人一人の生徒を理解して実態を的確に把握した上での学習習慣の育成や進路指導が重要という意味で、面接指導の充実を図る。</p>
現 状	生徒の持っている素質や能力からすると、十分に生かされたとは言い難い進路結果である。安易な方向に流れて学習が継続できなかつたり、目標を諦めるのが早く最後まで挑戦する気持を持ち続けられない生徒が少なくない。
達成目標	(1) 生徒の第一志望校(願書出願をした大学の中で最も行きたい大学)合格率
	卒業生数の65%以上
	(2) 生徒1人あたりの面接実施回数 (担任、副担任、授業担当者)
	1・2年生：6回以上 3年生：12回以上
方 策	<p>(1) 学習時間のスタンダードは、〈平日：1年・2時間、2年・3時間、3年・4時間〉〈休日：1年・4時間、2年・6時間、3年8時間〉とし、全体に周知を図りながら学習時間を位置づけた生活習慣を身につけさせる。なお、3年生は体育大会後は平日5時間、休日10時間を標準とする。</p> <p>(2) 1年生の初期指導を重視する。また、面接週間以外に校外模試の自己採点時での面接を必須とするなど面接指導を通して生徒の気持ちを前向きにさせる。</p> <p>(3) 大学入学共通テストに対応し、定期考査の約1割は思考力を試す設問とするなど、授業やテストを通して思考力の養成を図る。</p> <p>(4) 高い志望校の設定を指導しながらそれを貫かせるように支援する。また、そのことを通して挑戦する気持と最後まで諦めない心の育成を図る。</p> <p>(5) 校内外テストの成績状況や結果を分析し、今後の指針となるような資料を作成するとともに校内全体で各学年の情報を共有できるよう努める。</p> <p>(6) 3年生の進路支援を全校協力態勢を確認しながら充実を図る。特に、センター試験後の2次試験対策を強化し、生徒の第一志望校合格を支援する。</p>

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状よりわるくなった

	平成31年度（2019年度）高岡南高校アクションプラン - 2 -
重点項目	学校生活
重点課題	(1) 学校生活を生徒自身が主体的に取り組む生徒集団の形成 (2) 食の理解と朝食習慣の定着
現 状	(1) 学校生活に主体的に関われる活動が増え、活発に取り組んでいる生徒が増えてきている。 (2) 朝食を食べてくる生徒は多いが、内容に改善するところがある。
達成目標	(1) 学校生活に主体的に取り組んでいると感じている生徒の割合 90% (2) 朝食を食べてくる生徒の割合 90%
方 策	(1) ・生徒会執行部や校紀委員会を中心に学校生活をよくするための企画、運営を行う機会を設ける。 ・外部講師から着こなしやマナー、現代社会問題について指導していく機会を設け、生徒自身に生活について考えさせる。 ・部会の定例化、学年との連携を密にすることで学校生活の問題点や情報を共有しながら、生徒が主体的な学校生活を送れるように支援する。 (2) 朝食実態を把握し、食事の重要性の理解することで自身の朝食習慣を見直してみる。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

	平成31年度（2019年度）高岡南高校アクションプラン - 3 -
重点項目	学校の活性化
重点課題	将来への大きな志を持ち、主体的に学び活動する生徒の育成
現 状	<p>(1) キャリアデザイン・プロジェクトS（総合的な学習の時間）で、自らの生き方を考え、将来への展望を持ち、高き目標を持たせるような授業を展開している。</p> <p>(2) 生徒・教職員数の減少が続く、学校行事、部活動の従来どおりの企画・運営が難しくなっている中、学校活性化を損なわず、「元気南」を標榜す本校の立ち位置をいかに維持するかという課題に直面している。また、各行事に対して地域の方に対して広報活動を行い、多くの方に参観してもらうことが、生徒の行事に対する意識を高めるという面からも必要である。</p> <p>(3) 図書館を学びの場として活用して利用している生徒も多い。図書の貸出し数は横ばい傾向である。</p> <p>(4) 人文科学コースでは、教科「文化と情報」で表現力やコミュニケーション能力を高める授業を実施している。</p>
達成目標	<p>(1) キャリアデザイン・プロジェクトS（総合的な学習の時間・総合的な探究の時間）を通じて、進路目標が明確になった生徒の割合80%以上。</p> <p>(2) 学校行事に対して、生徒ひとりひとりが協働的かつ主体的に取り組み、80%以上の生徒が達成感を得ることをめざす。また、各学校行事に対して多くの地域の方の参観をいただく。</p> <p>(3) 一人につき年に2冊以上の貸出し数（のべ960冊以上）</p> <p>(4) 人文科学コース・教科「文化と情報」で表現することの関心・意欲が高まったと感じる生徒の割合80%以上。</p>
方 策	<p>(1) 総合的な学習の時間において、地域の方や同窓生、保護者、大学の教授などの活動を伺う機会をもち、広い視野で将来の目標を考えられるようにする。</p> <p>(2) 生徒会執行部員をサポートし、生徒全員が主体的に活動できるように配慮する。合唱コンクール、体育大会、南高祭において、地域の方に事前にプログラム等の配付を行い、参観の環境を整える。また、これにより生徒の行事に対する意識を高める。</p> <p>(3) キャリアデザイン・プロジェクトSでの探究的な活動で書籍を活用させる。図書館から朝読書用の書籍を選ばせる。（1年オリエンテーション時）</p> <p>(4) 「スプリングセミナー」等の校外学習および校内学習での学びをもとに、発見学習や発展学習を多く取り入れた質の高い授業を実践する。</p>

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった。

重点項目	ボランティア活動
重点課題	1 学年：生徒のボランティア意識の向上 2 学年：自発的なボランティア意識の向上 3 学年：地域と連携したボランティア活動への意欲的な取り組み
現 状	1 学年：これまでのボランティア活動への参加が5割程度 2 学年：昨年度のボランティア活動への参加が学年の8割程度 3 学年：ボランティア活動への参加が学年の8割程度
達成目標	1 学年：1年生全員がホームルームその他のボランティア活動に参加する。 2 学年：全クラスがホームルームでボランティア活動を計画し実践する。 3 学年：地域と連携したボランティア活動への参加が学年の8割程度
方 策	1 学年：①身近なボランティア活動をクラス単位で企画し実践する。 ②生徒会のボランティア企画への参加を促す。 2 学年：①生徒会のボランティア企画や部活動、クラス単位での積極的な参加を促す 啓発活動を行う。 ②校内外のボランティア活動の情報提供に努める。 3 学年：①ボランティア活動が実践できるようホームルーム計画を立てる。 ②生徒会のボランティア企画への参加を促す。

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった

	平成31年度（2019年度）高岡南高校アクションプラン - 5 -
重点項目	授業力向上
重点課題	大学入学共通テスト（新テスト）の実施にむけての授業改善
現 状	<p>(1) 互見授業などを活用し、各教科・学年の授業を参観する機会が増えてきたが、互いに学び合う場として、さらに工夫する余地がある。</p> <p>(2) 若手教員が、受験指導に直接関わることが多くなってきており、さらなる研修が必要となっている。</p> <p>(3) 大学入学共通テストにむけた授業改善の方策や、英語外部テストの導入に伴う各大学の対応、学びの基礎診断の活用などに関する情報が不足気味である。</p>
達成目標	<p>(1) 他教科の授業（新テスト対策を含めた）の互見授業参観2回以上</p> <p>(2) 若手教員と中堅教員、ベテラン教員が相互に学び合う校内研修の実施回数2回以上</p> <p>(3) 新テスト導入に関する外部講師を招いた校内研修2回以上</p>
方 策	<p>(1) ①互見授業期間に各教科1名以上の指定公開授業を行う。 ②他教科の授業を含めて、授業を2回以上参観する。 ③報告書を書くことで自分自身の学びを確認する。</p> <p>(2) 進路指導部と連携しながら、若手教員の受験指導について学びあう校内研修を実施する。</p> <p>(3) 新テストに関する校内研修を通じて、新制度への理解を深め、今後の教育活動改善に役立てる。</p>

()評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった